

ユーモアスピーチ船橋

2017 (H29) 年 10 月 12 発行

ジョークは暮らしの調味料・ユーモアは人生のかくし味

138 回船橋ユーモアスピーチ

2017 年 10 月 12 (木)

3 分間スピーチ

スピーチテーマ 「乾杯」「黄昏」

ロングスピーチ

「3 回目の地球一周旅行」 原田 公平さん

9 月 14 日の参加者：入江、稲葉、はらだま、中島、飯野、原田、山岸、山中、松本、大塚、松永、植野、早瀬、町田、長嶋 15 名

ロングスピーチ

「末期膵臓癌闘病記・始末記」

山中 昇さん

8 月 13 日に、昨年 11 月 1 日に亡くなった伴侶の実家を初盆で訪ね、真新しい墓の前で手を合わせてきました。32 年連れ添った妻との離婚（14 年の不倫後に）－不倫相手と同居開始－3 か月後にパートナーが「末期膵臓癌で余命 3 か月」の宣告を受けて闘病開始－12 か月後に結婚－17 か月で死別－魂の救済という思いもなかった展開の 3 年半でした。

人生はわかりません。格好悪くても、受け入れ、一生懸命生きるしかありません。どんなにみじめでも、生きていることは最高の幸せです。

私は、ヨガの修練を通じて、伴侶を失った悲しみから完全に立ち直り、強くなった自分を発見することができ、逝った伴侶の分も含めて、幸せになると誓いました。

（レジュメに、闘病の経過を時系列で紹介しました：2014/06/18～2016/11/01）



ロングスピーチ

「占領下の東京」

山岸 哲男さん

昭和 20 年 8 月 15 日。私は国民学校 4 年生で、疎開先から東京渋谷区の生家に帰っていました。恐らく渋谷区内でただ一人の小学生だったでしょう。敗戦を告げる玉音はよく聞き取れなかった。親が「戦争に負けた」とポツリと一言。空が真っ青で暑い日でした。9 月末に米軍が上陸するまでに、近隣では流言飛語が溢れました。「若い女性はみんなアメリカ兵に狙われる」。やがて米軍の戦闘機が東京の空を低空飛行して、私は翼に描かれた星マークを見て敗戦を実感しました。マッカーサー元帥が連合軍の総司令官として GHQ に



君臨して、米国大使公邸で陛下と並んで立つ写真が日本国民に衝撃を与えました。代官山の自宅近くに恵比寿という街があり、この大きな施設が接続されて英連邦軍が駐留しました。スカートをはいたスコットランド兵、蛮刀を下げた傭兵・ネパールのグルカ兵、テンガロンハットの豪州兵などが町中を闊歩します。恵比寿駅を通る省線電車にも、代官山駅を通る東横線にも、進駐軍専用車両が連結されて、日本人はオフリミット。また、アツと言う間に進駐軍相手の夜の女「パンパンガール」が出現しました。彼女たちも生きるためだったのでしょう。子供たちは進駐軍兵士が路上にばら撒くキャンディーやガムを我先に拾って嬉しかったのです。大人たちにはそれを見ても叱る気力も無い。まさに占領下の敗戦国です。小学校は秋に再開され、新教科書が配布されるまでは、これまでの教科書に部分的に墨を塗って使いました。私は小学生の後半・中学生の全期間と高校生時代の半分を占領下の東京で過ごしました。昭和26年のサンフランシスコ講和条約を経て、同27年、遂にこの国は独立を達成しました。私は思います。占領下から独立を獲得したお蔭で、一時的にも植民地にならなくてよかったと。日本人は「生きるために宗主国の国語を話す」という必要が無かったからです。

3 分間スピーチダイジェスト テーマ「あべこべ」「波」

植野晏生：「変化朝顔」

江戸時代、二度にわたって朝顔がブームになりました。今年私も変化朝顔を栽培してみました。種の芽切り・小鉢上げ・短日処理・本鉢上げと、とても手間がかかります。首都圏では、日比谷と佐倉・歴博が展示会として有名です。先月両方行って来ました。文珍云うところのジジババ、じじばばの中に、変化朝顔の出物と同じくらいの少ない確率で若くてきれいな女（ひと）がいたのが救いでした。歴史・鉄道・刀剣・灯台に続いて変化朝顔に来たのでしょうか。でもね、変わったものを好きな人はとても変わった人が多いそうですよ。

山岸哲男：「波」

8月に無事82歳になりました。マスコミ流に言えば、いつなんどき老衰死を遂げても不思議でない。私は今月、このクラスに入会して2年目に入りました。生来遠慮深く気が小さいタチなので、この1年間、新参者であることを自覚して、先輩方に失礼の無いように、小声でスピーチをしてきました。懇親会では、なるべく目立たないように、一人静かに先輩方のお話を伺うことに徹してきたつもりです。しかし皆さまは私が言っていることを「あべこべ」じゃないかとおっしゃるかも知れません。仕方ありません。すべて私の不徳の致すところです。そして、1年が過ぎて、やっと「波」が来ました。これからは、この「波」に乗って皆さまと共に、楽しいクラス作りに邁進したいと思えます。

飯野 望：「あべこべ」

世の中にはあべこべになることが色々あります。朝バナナ 効果あったの お店だけ！【白鳥になるつもりが像に】 痩せたのは 一緒に歩いた 犬の方！【ライオンの様な犬がカワウソのように】 大発見！！田谷さんのあべこべはハラダまさん・中島さんになることを発見しました。



町田雅和：「波」

波の字が付く落語家を探したら、波乗亭米祐が見つかった。これはサザンオールスターズの桑田佳祐が落語をするときの芸名、彼はそうとう落語が好きらしく、テレビドラマ「ひよっこ」のテーマソング「若い広場」でも韻を踏んだ言葉遊びしていて、落語が音楽にいい影響を与えている好例だと感じた。私も落語とマジックを趣味にしているが、単に落語ブームの波に乗るだけでなく、落語とマジックのいいところ取りをして、落語に新しい波を起こしてみたいものです。

早瀬君子：「波」

私の人生にも離婚という大きな波があった。離婚後直ぐに、知人の紹介で銀行で働くことになったのだが、43歳で専業主婦だった私にとって銀行の仕事は大変難しく、人間関係にも随分と苦労した。同じアシスタントとして働いていたもう一人の同年代の女性がいて、その女性はとても気性が激しい人で、他の若い行員たちからも“あまり近付かないように、気を付けるように”と言われていた。だがある日、遂にその女性とトラブルを起こしてしまい、激高した女性はすぐさま「真弓次長」に直訴？、私は真弓次長の前で事情を説明することになった。行内では評判の超イケメンで紳士的な50代のお偉方、真弓次長の前に座り、私は思わず泣いてしまった。離婚したばかりの境遇が辛く悲しくて、優しい真弓次長の対応への甘えだったのか…。次長が胸元から出してくれたハンカチで涙を拭い、そのハンカチを洗い丁寧にアイロンをかけて後日返したこと…大きな波の中での忘れ難い思い出になっています。

入江清之：「波」

船橋が登場する小説「波」は作家山本有三の昭和3年の作品。主人公は東京の小学校の男性教師、彼の妻が長男を出産後すぐに逝ったので、その乳飲み子を養育してくれる船橋の女性宅を訪ねたシーン「その家は船橋停留所から遠く、静かな所にあった」と。この停留場は今のJR船橋駅。又彼が3歳になった息子と上野動物園へ行く時の船橋停留場でのトイレのシーン「息子が彼の足にしがみつき、パパ、パパと叫んだ」と。やがて彼は船橋のその女性に好意を抱くが、ある日なぜか彼女の妹の誘惑に負けて、一線を越えてしまった。その後彼が成長した息子を引き取りに彼女宅を訪ねた時に彼女から愛の告白を受けたが、妹とのあの一夜がネックでそれを断り、今後は寄せては打ち返す人生の波を感じながら息子と生きる決意をしたストーリー。

原田公平：「波がもたらした幸運」

2010年、初めての地球一周の船旅の時、船が大西洋からカリブ海に入るとハリケーンに遭遇した。3週間前に経験したインド洋のモンスーンとは、けた違い。ボクは最上階から海と船を見た。見たことない大波に船はピッチングといって前後に揺れている。このために、キューバのハバナへの到着が1日、遅れた。その前夜、突然、キューバのカストロ元国家元首とピースボートとの平和交流会が発表された。なぜ、カストロがピースボートと会ってくれるようになったのか、その原因の1つに、ボクが乗船していたからである。この詳細は、10月のロングスピーチで「3回目の地球一周の船旅」を話すのでその時に、詳細は話します。

山中 昇：「自由題」

私は、昭和28年生まれの、「戦後生まれの軍国少年」でした。18歳まで、広島県江田島の旧海軍兵学校と呉の旧海軍工廠・鎮守府の近くで育ち、軍関係者が多かったのです。ですから、山岸さんの話に聞きほれていました。中でも、戦後出回っていた、怪

しげな英会話集の話には特別な興味がそそられました。母親から聞いた話ですが、戦後、アメリカ兵相手のパンパンのお姉ちゃんたちは、「どうしたの？どこか悪いの？」と聞く時に、乙（おつ）、○（まる）、湯（ゆ）と発音し、アメリカ兵に通じていたそうです。正式な通訳が「What 's the matter with you?」という正しい英語をしゃべると、わかってもらえなかったとのこと。もう一つ、日本で初めて日米会話集を作ったジョン万次郎の話もしました。高知県土佐清水市（妻の闘病で3か月滞在）に彼の記念館があります。そこに最初の会話集が展示してありました。彼の耳に聞こえた発音がカタカナで書いてあり、感動しました。子供 チルレン、家族 ファミア、ほかにも、なるほどと感心する表現が満載でした！

中島 孝之：「自由題」

総理大臣をやった羽田さんが先日亡くなりました。羽田さんは私たちが応援していた「ふるさとキャラバン」というマイナーな劇団の応援団長で、新年会などでお会いすると気楽に話しかけてくれて名刺をいただいた人でした。先日亡くなってその死因が老衰となっていて吃驚しました。私も7月で80歳になったので総理大臣をした人が82歳で死んで老衰とは心に引っかかりました。この歳になると死んだときのことを考えますが、私は家族葬でひっそりとやりたいと話しています。通夜で夜に出かけるのは億劫ですし出銭もあります。死に顔も見せたくないし気の利いた挨拶文を送ろうと思っています。私は死後の世界があると信じているので、死ぬことにあまり不安がありません。あまり苦しまないで死ねれば天から皆様の幸せを見守りたいとお思います。

長嶋秀治：「あべこべ」

先日ウォーキングの途中で逆走する車を目撃した。片側2車線で小さな川を挟んで上下線のある道路に細い路地から入ってきた車が左に行く道路に入り右折した。それほど交通量が無かったので大事に至らなかったと思う。私も現役時代によく逆走した。車ではなく電車で・・・正確には新宿で飲んでお茶の水で乗換え千葉に帰るところを東京駅まで行きそのまま折り返して立川まで行ってしまったことがある。上り電車がなくカプセルハウスに泊まった。数ある逆走のなかで最悪のケースでした。それ以来、私は努めて折り返しの駅で眠っている人がいると、終点ですよと肩を叩くことにしている。「注意」という題で「乗り越しは酒代よりも高くつく」という川柳を作り、先生から◎をもらった。乗り越しには注意しましょう。

お知らせ

ロングスピーチのレジメは、原則A4サイズ白黒1枚でお願いします。（事前に送付いただければ、町田がコピーいたします）
補足資料が多い場合、ノートパソコンに収納し、プロジェクターで投影することも可能です。ご相談下さい。

予告：11月の船橋ユーモアスピーチの会

11月9日（木）14時 ニッセイプラザ1階 会議室

ロングスピーチ 松永 成三郎さん「どの国が一番？」

松本 喜代子さん「サンパウロの思い出」

3分間スピーチテーマ「きっかけ」、「予想外」、「失敗談」、「自由題」

☆スピーチダイジェスト送付先 mac555new@ybb.ne.jp